

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi



年頭挨拶

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会長 津田 聡一郎

あけましておめでとうございます。

公益法人となって二回目の新年を迎えました。会員、賛助会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか？

昨年はいろいろな事件事故、自然災害等、ニュースの素材に事欠かない一年だったように思います。とはいえ、この埼臨技だよりの発行が15日付であり、会員の皆様がこれをお手元にしてお読みになるのは1月後半になるものと思います。もうこの時期、昨年一年を振り返るよりも新春から先を見たいと思います。

とは言いましても、まずは御礼を申し上げなくてはなりません。昨年12月6日に開催されました県学会は総参加者数が1300余名という大いなる数字を達成いたしました。関係者の創意工夫と努力、多くの会員の皆様に参加して頂き、支えて頂いた賜物と感謝に耐えません。本当にありがとうございました。

この一、二年で目新しいことと言えば（日臨技からの委託事業ではあるのですが）、**検査と健康展（11月）、検査の説明・相談講習会（1月）**があります。これらは今後、「臨床検査技師」という職業が、もっと一般市民の方々に認知、認識されるように、医療の中で検査のプロとしての位置付けを確実にするように、をコンセプトとしています。検査技師の今後の生き残り策の一つと言えます。

もうひとつの日臨技事業である**検体採取講習会**を皆さんは修了されましたでしょうか？これは「採血」が可能になったのに続いて、検査に使う材料は検査技師の手でというコンセプトであります。あと5年するとこの新カリキュラムを学生時代に修了した新しい「臨床検査技師免許」を持った新人が医療界に出て来ます。従来の方の免許の方は、講習会の修了を経なければ、同等の業務範囲になりません。実際にその業務に就くかどうかは分かりませんが、同じ範囲の免許範囲を目指しましょう。厚労省も免許範囲は一種類であることを好ましいと考えています。

この講習会の開催場所は、東京と地方厚生局所在地という条件があり、受講される皆さんにはご不便をお掛けしています。東京での開催部分はこれまで都臨技から実務委員を出して来ました

第44回 埼玉県医学検査学会

お礼 ～ がんを「識」ることができましたか? ～

第44回埼玉県医学検査学会会長 岩田 敏弘

去る2015年12月6日(日)大宮ソニックシティにおきまして開催された第44回埼玉県医学検査学会におきまして、1,310人の参加を得て、大盛會に終わりましたことをご報告いたしますとともに御礼申し上げます。

今学会は地区学会における新しいコンセプトに基づき、高度先進医療におけるチーム医療の一翼を担う立場として、「がん」にテーマを絞って開催しました。

塚本泰史さんのヤングジェネレーションセミナーは、学会場ですすり泣きすら聞こえたほど想いのこもったものでした。7会場で開催されたランチョンセミナーは、いずれも全国学会なみの講師と内容で、想定よりも早く完売したばかりでなく、立ち見まで出た会場もあったそうです。200席の大会場で行われたクイズ企画はオーディエンス機器の不調が妙な団結心と一体感を生んで印象深いものになりました。関根智紀先生のエコーライブは最高の被験者を迎え、がん描出のテクニックを余すところなく満喫することができました。市民公開シンポジウム「がんと言われた日に」は、リレーフォーライブのつながりのまま135名もの市民に参加していただき、3人の講師によるわかりやすい講演は多くの市民からも大好評をいただきました。また市民に対して「臨床検査技師とは何か」というお話をされた宮島喜文日臨技会長にも感謝をしなければなりません。特別講演の落谷孝広先生が講演された最先端に行く次世代プロジェクトの話題は、すべての人が「もっと聞きたかった」と言う感想だったと聞いています。いずれの企画も実行委員一同が練りに練り上げた企画だったので、満員の会場を見たときは万感の思いでした。

今学会、早朝から始まった一般演題と多くの学会企画をほぼ大過なく終えることが出来たのは、貴重な講演をいただいた先生方はもとより、一般演題に発表し、また参加された会員の皆様、裏方として企画やセミナーを支えてくれた賛助会員の皆様、当日のお手伝いをしてくれた理事・実務委員の皆様、期待に胸を膨らませた学生さんたちのおかげだと思います。

そしてどれだけ感謝してもしきれないのが、吉岡浩明実行委員長をはじめとする実行委員の面々。豊富な知識と新鮮なアイデア、緻密な企画、周到な準備、卓抜した情報共有力、一人ひとりが年齢や経験にとらわれることなく、存分に持てる力を発揮して、誰ひとり欠いても成し遂げることが



できない想いのこもった学会を作り上げることができました。三国志では「桃園の誓い」が有名ですが、私たちの団結力は「江南苑の誓い」として語り継がれることでしょう。

最後になりますが、語りつくせぬ感謝を胸に、今学会の公式記録を公表し、皆様のご批判を仰ぐとともに、来年、第45回学会へのバトンタッチの言葉としたいと思います。

「わがままを実現してくれて、ありがとうございます」そして「皆さん、がんを識ることができましたか?」



●第44回埼玉県医学検査学会開催の記録●

- ◎開催日 2015年12月 6日(日)
- ◎会場 大宮ソニックシティ小ホール・市民ホールなど11会場
- ◎参加総人数 1310名
- ◎市民公開シンポジウム参加市民 135人
- ◎招聘講師数18名
(ランチョンセミナー含む)
- ◎一般演題数114題・CM演題16題
- ◎協賛企業数66社
- ◎ランチョンセミナー弁当数490食
- ◎抄録発行部数2,800冊
- ◎市民向けポスター1000部
(会員・協賛施設、埼玉県内コミュニティセンター等)
- ◎ヤングジェネ・市民向けプログラム300部



各研究班の研修会報告を致します。

テーマ **甲状腺エコーを学ぶために「基礎知識と診断のポイント」**

主催 生理検査研究班

実施日時：平成27年10月21日 19時00分～21時00分
 会場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：専門教科ー20点
 講師：来住野 修（埼玉医科大学保健医療学部健康医療科学科）
 参加人数：会員80名
 出席した研究班班員：野本隆之 仲野浩 瀧沢義教 高梨淳子 関口知詠子 田名見里恵
 丸山陽介 横尾愛

研修内容・感想など

今回の研修会は「甲状腺エコーを学ぶために」と題し、甲状腺超音波の「基礎知識と診断のポイント」について研修を行った。講義は、ご高名で皆様よくご存知の来住野先生に講演していただいた。まず、解剖（上・下甲状腺動脈など）を理解した上で、周囲組織の観察による浸潤所見を見落とさないことが大切であると述べられた。超音波所見だけでは鑑別困難な甲状腺の機能異常や炎症性疾患では、症状と血中甲状腺ホルモン（TSH、T₃、T₄）、甲状腺抗体値などの所見も相対的にみていかなくてはならないことを挙げられた。また、結節性甲状腺腫の良性、悪性、腫瘍様病の組織学的分類には、それぞれの超音波像やドプラ法を併用し血流状態の観察など特徴的所見をわかりやすく解説していただいた。さらに、副甲状腺（上皮小体）の位置や悪性リンパ腫の説明もしていただき、多岐にわたる講義内容で受講者は、より知識を深めることができたと思われ、非常に有意義な研修会であった。

（文責：関口知詠子）

テーマ **銀増幅を用いた高感度インフルエンザ迅速診断システムについて**

主催 血清検査研究班

実施日時：平成27年11月13日 19時00分～20時30分
 会場：大宮ソニックシティ 905号室 点数：専門教科ー20点
 講師：古賀 稔（株式会社ミズホメディー）

参加人数：会員14名

出席した研究班班員：齊藤雅一 佐野悦子 相坂由里子 鈴木淳子 持田和紀 庄司和春

研修内容・感想など

今回の講演は、古賀氏によるインフルエンザ迅速検査の高感度法についてであった。インフルエンザの迅速検査としてイムノクロマト法を採用し、実際に検査を行っている施設は多いと思われる。そして、インフルエンザ検査が陰性であった患者さんの検体が数日後に再提出され、今度は陽性であったという経験は無いだろうか。抗インフルエンザ薬は症状が出てから48時間以内に投与することが望ましいとされている。したがって、症状が出たらすぐに病院で検査してもらう患者さんも多いと思われる。ところが、現在われわれが用いているイムノクロマト法の測定キットでは感度が十分でなく、インフルエンザに罹患してもウイルス量がある程度まで増えていないと陰性になってしまうとのことであった。

検査が陰性だと抗インフルエンザ薬ではなく総合感冒薬が処方される。これでは当然インフルエンザウイルスに効果はないため、症状は重くなってしまう。すなわち、早めに投薬すべきだが早めに検査すると陰性になる、という矛盾が存在しているのが現状である。そこで、インフルエンザ抗原検査の高感度化が望まれるわけであるが、今回紹介された高感度インフルエンザ迅速診断キットは、通常のコロイドを用いたイムノクロマトの反応後、自動で硝酸銀溶液を塗布しコロイド粒子に銀粒子を結合させ、粒子を100倍以上に巨大化させることにより高感度化を実現したキットである。ラインの読み取りも機械が行うため読み落としの心配もない。高感度化の程度であるが、3症例において希釈試験で確認したところ、従来法と比較し8～32倍高感度であったとの事であった。この測定法が普及すれば、早期の投薬が可能となり、インフルエンザの重症化症例を減らすことができる。その結果として、インフルエンザの流行にブレーキをかけることに寄与する可能性もあると期待される。

(文責：庄司和春)

テーマ **今から使える検査道シリーズ！ 初心者から中級者、若干上級者向け**

主催 血液検査研究班

実施日時：平成27年11月19日 19時00分～20時45分

会場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科－20点

講師：常名 正弘（東京大学医学部附属病院検査部）

参加人数：会員111名 申請中3名

出席した研究班班員：星孝夫 網野育雄 根岸永和 羽鳥浩司 田中正 原誠則 岡安幸子
軍司雅代 圓田和人 橋口恵子

研修内容・感想など

研修は2部形式で行われた。「血液検査データの見方・考え方のコツ」と題して、血球減少を中心に構成された第1部は、汎血球減少+DICではAML.M3を考慮するMAとMDSおよび一部の悪性リンパ腫（DLBLとFL等）はLDのデータによりある程度予測可能なことなど、数の増減・スキャッタグラムなどの検査値から判ることの基本から症例まで提示され、とても分かりやすかった。また、検査値のみにとらわれることなく、年齢等患者さんの背景にも目を向け、さまざまな情報を関連付けて考えていくことが大切であることがよく理解できたことと思う。

第2部は「血液疾患診断・検査結果の見方・考え方」で、実際の血算データを提示して解説された。血小板減少の症例では、ヒストグラムの見方、EDTA依存性偽性血小板減少症の成り立ち、検体凝固との鑑別ではフィブリン系の有無やカナマイシン添加により凝集がほぐれて報告可能となる等、「再検して同じならOKということは血球検査ではご法度である」と注意喚起された。

貧血の鑑別では、赤血球指数より3種類に分類される中、正球性正色素性貧血である溶血性貧血の例、また破碎赤血球の出現例では、血管の異常に関連したものと、血栓性微小血管障害（TMA）に大別される中、TTP（血栓性血小板減少性紫斑病）について診断から治療に至るまでの過程が示され、日常あまり遭遇する機会の少ない症例だけに大変参考になった。

最後に、担当技師は、依頼のあった項目を検査しているだけではなく、診断（治療）できるまで検査を行う事が必要であり、検査データを理解し、確定診断を導き出すような検査の提案

ができるところまで目指していくべきであると締めくくられた。

(文責：橋口恵子)

テーマ 稀な細菌とめぐり逢うコツとノウハウ

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成27年11月20日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニック 604号室 点数：専門教科ー20点

講 師：大楠 清文（東京医科大学 微生物学教授）

参加人数：会員59名 賛助会員9名

出席した研究班班員：永野栄子 金田光稔 砂押克彦 牧 俊一 佐藤香里 酒井利育 小西光政

研修内容・感想など

今回の研修会では、「稀な菌とめぐり逢うコツとノウハウ」というテーマで大楠先生にご講演いただいた。はじめに感染症診断のための微生物検査における10ヶ条について説明があり、その中で検体採取には綿棒よりも先端が毛羽立っているフロックスワブの方が6～10倍も検体のリリース率が良いということがわかった。また、培地からすべての菌のコロニーを拾う事が微生物検査技師の仕事ではなく、そこから起炎菌を判断する「感染症診断技師」が必要とされているということであった。次に、感染症診断技師を目指すために「筋トレ」ならぬ「菌トレ」と称して、菌のコロニーの外観・色・臭い・溶血性・感触やグラム染色像と臨床情報から起炎菌を推定していく菌力トレーニングについて講演していただいた。普段から検出される菌でも見落としがちなポイント、また検出が稀な菌を臨床情報などからひらめくコツ、またCREなどの耐性菌の検出方法など、幅広く教えていただいた。また質量分析については、同定まで5～30分と迅速で、ランニングコストが安く簡便な操作という良い面だけでなく、中には同定パターンが類似していて鑑別の難しい菌種もあることがわかった。

万能と思われる質量分析が導入されたとしても、やはり従来からの菌種同定の手技をしっかり行い、「筋力」改め「菌力」を身に付ける事が重要であると感じた。

(文責：佐藤香里)

埼臨技ひろば

ここから先の「臨床検査技師」のために！

今現在、参議院の現役議員に臨床検査技師が二人居られることをご存知でしょうか？
自民党所属の伊達忠一氏と赤石清美氏です。お二人は共に検査センターの出身で、伊達氏は札幌にあるセンターの社長経験者、赤石氏は八王子にあるセンターの検査現場から取締役会議長まで叩き上げで成られた方です。

勿論、衛生検査所を取り巻く技師法の周辺は社業に係わることとして詳しく、熱心です。しかし、病院検査技師の立場や実情を第一に考えて活動してくれるのは、「病院勤務の経験のある検査技師の中から代表者を出さなくては」ではないでしょうか？

国政に打って出るには、様々な条件・環境が整うことと、一般市民に向けて、「臨床検査技師」というモノを一致協力して訴えて、アピールしていく力強さが必要です。まずは、会員のみなさんが興味を持って関心を傾けること、そしてより良くすることにご協力をお願いします。

(文責：津田聡一郎)

平成27年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第9回 理事会議事録

日 時：平成27年12月11日（金）18時30分より

場 所：JCHO埼玉メディカルセンター
さいたま市浦和区北浦和4-9-3

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)津田 神山 島村 矢作 小山
奈良 長岡 伊藤 猪浦 松岡
小島 濱本 藤井 山口 武関
鳥山
(監事)遠藤 細谷

本日の理事会の出席者は18名であった。理事の出席者は16名で、現在数20名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (平成27年11月12日～平成27年12月10日)

11月12日(木)平成27年度公益社団法人第8回理事会：

津田、神山、島村、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、神嶋、山口、武関、野瀬、遠藤、細谷

11月13日(金)事業部部会（メール会議）：

島村、濱本、藤井、長澤、神嶋

11月14・15日(土・日)第4回首都圏支部学会：

津田、神山、矢作、遠藤

11月14日(土)1都8県会長会議ホームページ運用委員会：津田、矢作

11月18日(水)第45回埼玉県医学検査学会第2回実行委員会：

猪浦、長岡、長澤、武関

11月20日(金)第44回埼玉県医学検査学会第13回実行委員会：岡田、長岡

11月24日(火)第44回埼玉県医学検査学会の案内(埼玉医科大学)：伊藤

11月30日(月)第44回埼玉県医学検査学会の案内(女子栄養大学)：伊藤

12月1日(火)予算委員会：

神山、島村、小山、奈良、濱本、松岡、小島、山口、野瀬

12月3日(木)第44回埼玉県医学検査学会の案内(埼玉県立大学)：伊藤

12月5日(土)第44回埼玉県医学検査学会前日準備：岡田、猪浦、伊藤、長澤

12月6日(日)第44回埼玉県医学検査学会：

津田、神山、島村、岡田、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、神嶋、山口、鳥山、武関、野瀬、遠藤

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 1) 日本衛生検査所協会より平成28年賀詞交歓会の案内が届いた。
- 2) 都臨技より平成27年度新春のつどい・各賞受賞祝賀会の案内が届いた。
- 3) 埼玉県医師会より2016新春の集いの案内が届いた。

2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第439号、12月15日発行予定
- 2) 臨床検査技師養成校へ第44回埼玉県医学検査学会の案内を行った。
- 3) 「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」について

3 事業部

- 1) 11月13日、事業部メール会議を実施した。
- 2) 11月16日、新入会員向け研修会報告書を日臨技へ提出した。

4 学術部

- 1) 平成27年度地区別研修会について
- 2) 11月19日に開催された血液検査研究班の研修会を日臨技推進事業として提出した。

5 精度保証部

- 1) 特になし

6 会計部

- 1) 平成27年度正会員費5名分25,000円、入会金5名分5,000円、合計30,000円の入金があった。
- 2) 生涯教育推進研修会助成金1研修会分50,000円の入金があった。
- 3) 埼臨技会誌Vo162No.3印刷代793,152円、だより第438号印刷代143,942円、仕分費7,258円、封筒長3号27,648円を石井印刷に支払った。

7 精度管理委員会

- 1) 特になし

8 一都八県会長会議

- 1) 11月14日、1都8県会長会議ホームページ運用委員会が開催された。

9 日臨技関甲信支部

- 1) 特になし

10 日臨技

- 1) 特になし

11 第44回埼玉県医学検査学会

- 1) 11月20日、第13回実行委員会を開催した。
- 2) 学会来場者数について

12 第45回埼玉県医学検査学会

- 1) 11月18日、第3回実行委員会を開催した。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(平成27年度分)
平成27年12月1日現在
会員数 2,580名
(新入会員 230名[平成26年度会員数2,441名])
賛助会員 78社[平成26年度 79社]
承認された
- 2) 平成28年度定時会員総会日程について

平成28年6月3日(金)に開催することで承認された。

- 2) 日臨技より平成28・29年度医療関連サービス振興会衛生検査所調査指導員の推薦依頼について

神山副会長を推薦することで承認された。

2 総務部

- 1) 埼臨技・臨床検査技師養成校連絡会議の開催について

平成28年度より開催することで承認された。

- 2) 第45回埼玉県医学検査学会予算案について承認された。

3 事業部

- 1) 平成28年度賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会要項について

承認された。

4 学術部

- 1) 査読委員の増員について承認された。

5 精度保証部

- 1) 特になし

6 会計部

- 1) 埼臨技事務員の冬季賞与について承認された。

7 精度管理委員会

- 1) 特になし

IV. 議題

- 1 平成27年度臨時会員総会議案書について 矢作事務局長より平成27年度臨時会員総会議案書について発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。

- 2 平成28年度予算について 松岡会計部長より、平成28年度予算案の提示があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

求人案内

○上尾中央医科グループ 医療法人社団愛友会 伊奈病院

採用条件：正職員 臨時職員(パート)
連絡先：048-721-3692 内線5117
総務人事課 佐貝・秋本

○ヘブロン会 大宮中央総合病院

採用条件：正職員 臨時職員(パート)
連絡先：048-663-2501 人事担当者

○医療法人 大宮シティッククリニック

採用条件：正職員 臨時職員(パート)
連絡先：048-645-1256 本部長 星野

○一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター

採用条件：臨時職員(パート)
連絡先：048-824-1629 内線310 鈴木

○医療法人財団 健隆会 戸田中央 総合健康管理センター

採用条件：臨時職員(パート)
連絡先：048-442-1118
総務課 採用担当

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あ と が き

2016年が始まりました。本年もよろしく願いいたします。

昨年12月6日(日)第44回埼玉県医学検査学会が盛会裏に終了しました。頼りない学会担当理事として1年以上に亘り実行委員のみなさんと作り上げてきた学会ですので(私は特に何もしていませんが...)感慨深いものがありました。当たり前の話ですが毎年何もないところからの出発です。少しずつ形ができてゆき、それに比例するように実行委員の表情が頼もしさを増していく。そして抜群の笑顔で終わる。一年以上大変だったと思いますが頑張ってきてよかったですね。

ご参加いただいた会員の皆様、市民の皆様、運営に携わっていただいた皆様に心より感謝申し上げます。そしてお疲れ様でした!



(長岡 記)